

ベースアップ評価料 制度見直しを求める要望書を提出

茨城県保険医協会は5月29日、今次改定の新設点数「ベースアップ評価料」に関して、制度見直しを求める要望書を岸田総理大臣、武見厚生労働大臣宛、郵送で提出した。

ベースアップ評価料については、保険医協会が会員医療機関向けに行った届出動向調査（※4/15～4/25実施）において、医科診療所は約70%、歯科診療所は約85%が「届出見合わせ・届出しない」と回答。調査時点では、多くの医療機関が届出を『躊躇』する結果となった。

届出を躊躇する理由としてあげられたのが、「届出を行うための実務が煩雑」という点。届出には、届出様式の他、賃金改善計画書の提出が必要であり、計画書作成の実務には労務管理の知識が必要となることから、即座の対応は難しいとの声が多くあげられていた。

対象職員が限定されたことに不満の声多数

本点数は医療機関職員賃上げのために設けられた点数だが、対象職種が限定され、医療機関運営を支える医療事務職が対象にならないことに多くの医療機関から不満の声があがっている。厚労省の説明では、初再診料の引き上げ分にベースアップ評価料算定対象とならない職種の賃上げ相当を盛り込んだとしているが、いかほどの費用が盛り込まれたか明確にされていない。同じ医療機関で働く職員でありながら、評価対象とされている職種とそうではない職種に区別されたことは、職場内の分断につながりかねない。

本来的には基本診療料の引き上げにより、医療機関で働く全ての職員の賃上げ実現が必要だが、今回、保険医協会では、届出書類の簡素化により多くの医療機関で届出が可能となるようにすること等を求める要望書を提出した。要望書の内容は右記のとおり。

2024年5月29日

内閣総理大臣 岸田 文雄 殿
厚生労働大臣 武見 敬三 殿

一般社団法人茨城県保険医協会
会長 高橋秀夫

ベースアップ評価料の制度見直しを求める要望書

時下、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

2024年度の診療報酬改定では、医療機関職員の賃上げに係る評価として「ベースアップ評価料」が創設されました。昨今の物価高騰、他業種での高水準の賃上げをみれば、医療分野においても賃上げは必須であります。しかしながら、今回創設された「ベースアップ評価料」は蓋を開けてみると、医療機関が難渋する要素が多分に含まれたものであることがわかりました。

当会が2024年4月15日～4月25日の期間で行った【ベースアップ評価料】医療機関での届出・算定に関する緊急状況調査では、71.2%の医療機関が施設基準の届出について「様子を見る」または「届出しない」と回答しました。また、その傾向は無床診療所でより強くあらわれております。

届出を敬遠する最大の理由として、82.1%の医療機関が「届出を行うための実務が煩雑で対応できない」と回答しております。これは、届出時に添付する「賃金改善計画書」の作成、その結果を報告する「賃金改善実績報告書」の作成が大変複雑であるため、届出を躊躇するものです。

もう一つの懸念事項として、54.3%の医療機関が、診療報酬明細書に「ベースアップ評価料」と記載されることによる患者対応をあげています。診療報酬は療養の給付に対して支払われるものですが、ベースアップ評価料は医療機関職員の賃上げに限定したものであり、算定時、患者への説明がつかずに現場で苦慮することが想定されます。

更に、本調査では、ベースアップ評価料において、賃上げ対象職種が限定されたことに不満の声が多数寄せられています。特に、医療機関を下支えする事務職員が対象外となっていることに不公平感が募っています。中央社会保険医療協議会・総会（2024年1月26日開催）では、「40歳未満の勤務医や事務スタッフは極めて多様な勤務形態であることから、基本診療料を引き上げ、各医療機関の裁量で賃上げに対応してもらおう」としていますが、基本診療料の引き上げは「標準的な感染対策実施と賃上げ」の両者を念頭において行われたものであり、基本診療料のうち、賃上げのためにどれだけの割合が割かれているのか明確ではありません。また、「多様な勤務形態」は看護職員等も同様であり、これは職種間の分断や医療機関内の規律を乱すきっかけとなりかねません。

以上のことから、ベースアップ評価料を算定することが「絵に描いた餅」とならないよう、至急、制度の見直しを強く求めます。下記事項の実現に向けご高配を賜りますようお願い申し上げます。

記

- ベースアップ評価料の届出に係る、賃金改善計画書ならびに賃金改善実績報告書の記載を極めて簡素化すること
- 医療現場において、診療報酬明細書に「ベースアップ評価料」と記載されることによる患者説明に困らないよう、国が十分な情報発信を行うこと
- ベースアップ評価料の算定対象となる「対象職種」を限定しないこと

以上